

# 初級および上級日本語の留学生と学部日本人学生は 交流授業を通して何を得たか —主に初級日本語コースの留学生の視点から—

森 由卯子

## 要 旨

本学では、「大学の世界展開力強化事業」ラテンアメリカプログラムの受入れプログラムとしてゼロ初級者を中心とした集中初級日本語コースを設置している。本稿では、この集中初級日本語コースと外国人留学生別科上級コース、学部日本人学生との異文化間交流および日本語異レベル間交流の試みの成果と課題を集中初級日本語コースの留学生の視点から報告する。

16か国の学生が集まったこの交流では、「日本のよいところ」、「自国のよいところ」についてのディスカッションを通して、多様な文化に触れることによって、日本を評価する視点が増え、他の文化の理解を深め、自国の文化を客観的に見ることができた。また、上級コースの留学生との交流により、実際に上級まで到達した留学生との交流で、習得期間や勉強法を聞き、自分たちも上級レベルに達することが不可能ではないという自信となり、日本語学習のモチベーションが上がったことがわかった。

キーワード：初級日本語コース、上級日本語コース、異文化間交流、異レベル間交流  
モチベーション

## 1. はじめに

南山大学では、2015年度より、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」～中南米等との大学間交流形成支援～（Japan-Latin America Student Mobility Program）（以下LAP）が始まった。LAPには、受入れプログラムとして、日本語を習ったことがない学生を中心に初級の範囲で3週間の集中初級日本語コース（以下IEJ）を設置している。このIEJの学生（以下中南米LAP生）と2018年3月に外国人留学生別科に開設された上級日本語コースの留学生（以下別科生）と学部日本人学生（以下日本人学生）との異文化間および異レベル間交流を試みた。本稿では、その試みの成果と課題について、主に筆者が担当するIEJの中南米LAP生の視点から報告する。

## 2. LAP概要

LAPは、上智大学、上智大学短期大学部、南山大学3校が国内連携校として、中南米6か国13大学と教育交流をするものである。受入れプログラムと派遣プログラムがあるが、受入れプログラムの一つとして、中南米の6か国13大学からの交換留学生が、南山大学で約3週間のIEJを受講した後、上智大学の正規課程の留学プログラムに参加するというものがある。IEJは、週8コマ（1コマ90分）のコミュニケーションと読み書きの授業と週3コマのJapanese for Practical Use（以下JPU）からなる。JPUでは、企業へのインターンシップや南山小学校での交流のための準備、日本人学生との交流、日本について調べ発表するミニプロジェクトワークの3つの授業からなっている。また、日本語の授業の他に午後には、東海地方の中南米地域に海外展開をしている企業訪問をするインターンシップや南山小学校での交流などが行なわれている。この日本語集中コースに参加できる学生の日本語レベルはゼロ初級から初級の中程度までとしており、ゼロ初級者のクラスと初級学習者のクラスの2クラスからなる。目標はインターンシップなどで必要な自己紹介、飲食店での注文、買い物、交通移動、場所を聞くなど生活に必要最低限の日本語を習得することである。南山大学でIEJが終了した後、上智大学での正規課程での留学プログラムに参加するが、留学生が希望すれば、上智大学で日本語コースに参加することができる。

一方、派遣プログラムには、南山大学が交換留学協定を結んでいる5か国7大学<sup>1)</sup>に長期留学（1セメスターか1年）するものと短期プログラムであるペルー・スタディツアーとハベリアーナ大学スペイン語研修がある。そして、これらの派遣生(以下日本人LAP生)と受入生である中南米LAP生とが留学前後に交流することが求められており、IEJのJPUの日本人との交流授業は両者が交流できる機会の一つとなっている。

## 3. 実践概要

### 3.1. 目的

2016年3月から行われてきたJPUの日本人学生との交流授業については、土居（2017）が実践報告をしているが、主にゼロ初級レベルの学生と日本人学生との交流であったので、日本語の文型練習だけでなく、お互いの文化や習慣を知る文化交流も目的として行われていた。ただ、日本人LAP生との交流を主にするつもりであったが、必要な人数が集まらず全学部にも声をかけて日本人学生を確保した。今回は別科との合同授業であったので、日本人LAP生だけではなく、全学部にも参加を呼び掛けた。そして、3つのグループ（中南米からの留学生が参加するLAPのIEJと主に東南アジア、欧米からの留学生が参加する留学生別科上級コース、学部日本人学生）の異文化間交流と日本語異レベル間交流を試みた。

中南米LAP生と日本人LAP生には、多様な文化に触れ、意見交換を通して日本を評価する視点を増やし、自他の文化理解を深めること、また中南米LAP生については、別科生の日本語に触れ日本語学習へのモチベーションを高めることを目的として交流を行った。

### 3.2. 参加者

全員で33名の学生が参加した。(全16か国)

日本人学生：9名(日本人LAP生5名を含む)

別科生：13名 内訳はカンボジア人1名、中国人1名、タイ人2名、ベトナム人1名、  
韓国人1名、ドイツ人1名、フランス人1名、イギリス人1名、オーストラリア人  
1名、アメリカ人2名、インドネシア人1名

中南米LAP生：11名 内訳はアルゼンチン人3名、メキシコ人3名、コロンビア人4名、  
ブラジル人1名

### 3.3. 授業の流れと方法

#### 1) 準備 35分間

交流授業の前に、中南米LAP生には、A4の半分のサイズの紙に「日本のよいところ」と「自分の国のよいところ」を簡潔に日本語と英語でできるだけ書くこと、日本語がわからない場合は英語のみでよいと指示した。日本人学生には同様に「日本のよいところ」と海外に行ったことのある人はその国のよいところを書いてくるように指示した。

例

日本は治安がいい Japan is a safe country (日本・JAPAN)
---------------------------------------------------

#### 2) 授業の流れ

使用言語は日本語と英語で、授業テーマは「日本のよいところ」「私の国のよいところ」とし、各グループでディスカッションを行った。

各グループ6,7人(中南米LAP生2,3人、別科生2,3人、日本人学生1,2人)の5グループを編成し、各グループでは別科生が一人調整役を務める。通常の授業時間は2コマで90分であるが、前回の準備のための授業を10分短くし、今回は100分行った。

##### (1) 40分間

各グループで自己紹介を行う。その後、「日本のよいところ」について準備した用紙をみせながら各自発表し、それについてディスカッションを行う。次に「私の国のよいところ」について同様に各自発表し、ディスカッションを行う。

## (2) 30分間

地域別（欧米、アジア、日本、中南米）に分かれ、ボードに用紙を項目別に整理していく。その後、自分以外の地域のボードに貼られた項目を見て回る。

## (3) 30分間

グループのメンバーを変えて、ボードに貼られた項目について、気づいたことやびっくりしたこと、違和感を持ったものなどについて話し合う。最後にまとめとして、代表者が授業についての感想を言う。

## 4. 調査方法

1. ICレコーダーを各グループに置き録音した。
2. 授業後にアンケート調査を全員に行った。

中南米LAP生に対するアンケート内容については、大きく二つに分けられる。一つは、異文化間交流に対するもの、もう一つは異レベル間交流に対するものである。アンケートは筆者がスペイン語とポルトガル語に訳し、回答はスペイン語か英語で書くよう指示した。

日本人学生に対しても異文化交流に関しては同様の内容について行い、他に中南米LAP生との交流や別科生との交流についても記述してもらった。

## 5. 結果と考察

### 5.1. 中南米LAP生へのアンケートの結果と考察

#### 5.1.1. 異文化間交流について

- ①「今日の授業はどうでしたか。感じたことを自由に書いてください。」という質問に対しては、次のような意見、感想であった。（筆者訳）
  - 色々な学生と交流ができ、とてもよかった。
  - 今日は多くの新しい人と知り合え、その人々の文化を知ることができた。他の人との違いがわかることはいいことだと思う。
  - とてもいい経験だった。こんなに多くの違う国の人々と交流できる機会は少ないと思う。
  - 日本だけではなく、その他の国の文化を知ることができて興味深かった。
  - 色々な人々とクラスを共有でき、自分が知らなかったたくさんの事を知ることができてとてもよかった。また、自分の国の文化の価値に気づけた。
  - 色々な違う国の人々と共有でき、ラテンアメリカ、日本、他の学生の国について聞くことができて信じられないような経験だった。

- ダイナミックなクラスでとても楽しかった。
- たくさんの国の人々と共有できる機会がもて、またその人たちの文化を学び、日本での経験を豊かにしてくれるととてもよい経験だった。
- 楽しかった。異なった、面白い、様々な視点を知ることができた。
- 一つの場所でたくさんの国の人と知り合えて興味深かった。ラテンとアジア人はとてもちがうと思っていたのに、類似点に気が付くことが興味深かった。
- 今日のクラスはとても啓発的であった。日本について、また他の国についても他の視点を知ることができた。絶対会えないと思っていた国の人々と学んだり話したりすることができた。

これらをまとめると、全体的に色々な文化の人と共有できる機会をよい経験だったと評価し、他の文化を知るだけでなく、自分の文化の価値に気づいたり、色々な視点があることに気づくことができたことがわかる。

②「今日の意見を通して、日本文化・社会について新たに気づいたことはありましたか。」

という質問に対しては、次のような意見、感想であった。(筆者訳)

- はい。日本人が外国人に親切なのは心からそうしたいと思っているのではなく、そうしなければならないからだということがわかった。
- 日本人は小さい時から独立していることがわかった。
- 日本人は他の国のことについてあまり知らないと思う。日本人にとって、安全は当然のことで、他の国がちがうということに気がついていない。
- 日本の文化はすべてのことがうまくいくように多くの規則に則っとならなければならないので、閉鎖的であることがわかった。
- 家族間での愛情表現があまりない。他のことについてもリスペクトしている。
- いいえ。ほとんどのことは言われている通りだと思う。
- はい。日本人は他の国でも安全であると思っている。
- 車の運転は思っているほどよくないことがわかった。また日本人の習慣についても学んだ。
- コンビニがあらゆるところにあるのは、利便性を追求しているからだとわかった。日本人が季節の変化が好きだということや色々な食べ物があることを知った。
- 日本に来る前に聞いていたことではあるが、時間の正確さ、例えば電車の時間の正確さなどは日本に来て本当だと思ったし、その他の事についても自分が聞いてきた通りであった。
- 日本の文化の中に季節やその変化が重要であることを学んだ。また、日本人の子供が

親のプレッシャーに悩んでいることを学んだ。

以上のことをまとめると、殆どの中南米LAP生が新たな気づきがあったことがわかる。日本人や彼らよりも長く日本に滞在している別科生から別の視点を獲得する機会となっている。一方で、留学前に国で日本について聞いてきたことがその通りであったという確認もなされている。そして、日本人学生とのディスカッションを通して、日本人学生は他の国についてあまり知らないという批判的な意見も見られ、これは、日本人学生に対する新たな視点であるといえるであろう。

③「今日の意見交換を通して、自国の文化・社会について、新たに気づいたことがありましたか。」という質問に対して、「いいえ」と答えたのは、二人であったが、その他の意見、感想としては、次のようなものがあった。(筆者訳)

- ボディコンタクトは私たちの文化の本質だということがわかったが、他の国ではそれは珍しく、普通のことではないということがわかった。
- いつも悪い面ばかりみていて、良いことにも気づかないうちに批判していた。私たちは唯一自分の国の悪い面を挙げている。(メキシコ)
- 自分の国のよい点を再確認した。
- 私の国(アルゼンチン)は、きずな、家族や友達をととても大切にしていることに気づいた。私たちは随分気楽に生きているが、かなり秩序がみだれていると思う。
- コロンビアについて語るにはたくさんの方がいることに気づいた。実際に学んだし、私たちやラテンの国々がもっているコミュニティの感覚や兄弟愛について身をもって感じた。
- ベトナムやインドネシアなどのアジアの国々に似ていると思った。
- 自分の国に対してというより、この授業での活動をしていて、私たちは他の国の人たちと比べるとうるさい(大声で話す)ということがわかった。
- ブラジルではお互いのボディコンタクトが多い。

ボディコンタクトや家族や友達との関係性など、自分の国のよい点に気づいたり、再認識する意見があった一方で、秩序のみだれや、うるさいなどの悪い点についても客観的に自文化を見る意見があった。

### 5.1.2. 異レベル間交流について

次の4点について記述してもらった。

①「上級日本語コースの留学生と一緒に学んで、自分ももっと日本語で話せるようになり

たいと思いませんか。」という質問に対して、

5: とてもそう思った 4: そう思った 3: どちらでもない 2: あまり思わなかった  
1: まったく思わなかった

の5段階から回答を求めたところ、「5: とてもそう思った」を選んだ学生は11名中6名、「4: そう思った」は11名中4名で1名の「3: どちらでもない」を除いて日本語をもっと話せるようになりたいと思ったと答えている。

②「上級日本語コースの留学生と一緒に学んで、これからも日本語の勉強を頑張ろうと思いませんか。」という質問に対して同じく5段階で回答を求めたところ、

「5: とてもそう思った」を選んだ学生は11名中5名、「4: そう思った」は11名中4名で、2名が「3: どちらでもない」と答えている。11名中9名の学生が日本語の勉強を頑張ろうというモチベーションが高まったと考えられる。

③「上級日本語コースの留学生と一緒に学んで、よかったことはありますか。」という質問に対しては、11名中7名が、交流することで、実際に留学生が流暢に日本語を話しているのを聞き、その勉強法や学習期間に興味を持ち、自分にも不可能ではないと感じ、日本語学習の強いモチベーションになったと答えている。筆者はメキシコで2年、アルゼンチンで12年の日本語教授経験および中南米の教師とのネットワークによる情報から、中南米での日本語学習者は何年もかかって初級を終了する学習者が多いことや、上級のクラスがない日本語教育機関も多いという現状があり、学習者には、上級レベルに到達するのは非常に難しいという印象があったと思われる。間近かに日本語の上級者と交わる機会がなかったのが、今回、色々な国の日本語上級者と交流することで、モチベーションが高まったのではないだろうか。また、色々な人の日本語を聞き、会話の練習になった、言葉に慣れることができたという意見もあった。

④「反対に、よくなかったと思うことはありますか。それは何ですか。」という質問に対しては、「いいえ」と回答したのは4人、無回答は4人であった。3人は自分たちの日本語のレベルが低いので言っていることがわからなかった、ついていけなかった等と回答しており、自分たちの日本語レベルを認識したものの①、②の回答では、いずれも「とてもそう思う」、「そう思う」と回答しており、モチベーションが下がったわけではなく、却って日本語学習のモチベーションがあがっていることがうかがえた。

## 5.2. 日本人学生へのアンケートの結果と考察

本稿では、日本人学生に対して行った質問のうち、LAP生との交流についての質問の結果のみについて報告する。

①「中南米LAP生と一緒に学んで、よかったことはありますか。それは何ですか」という質問についての意見、感想を次にあげる。

- ラテンアメリカの留学生と関わることは普段あまりないので、楽しかったですし、彼らの独特な文化や生活スタイルなどを知れたこともよかったです。
- 生のスペイン語が聞けたことやハベリアーナ大学の学生に会えたことが一番良かったです。
- ふだんアルゼンチン人の学生がいないので新鮮だ。
- 国籍も多様でいろんな地域の人と情報共有できてよかったです。
- スペイン語を使うことができたし、日本語からスペイン語、英語からスペイン語と翻訳できたりして、すごく勉強になった。
- 価値観が違う、食文化などが違うことがわかった。
- ラテンアメリカの人と関わる機会はなかなかないのでよかったです。
- 日本から距離があって、行ったことのない国だけれど、日本の文化が根付いていることもあって興味深かった。
- いろいろな国の意見が聞けたことがよかったと思う。例えば、コロンビアからの留学生とかは自分が初めて会ったので、欧米やアジアの人だけでなく、多くの国の人と触れ合えたことは貴重なことだったと思う。

日本人学生の中には、日本人LAP生も5名いたので、スペイン語に触れられたことや自分の留学先の大学生と知り合いになれたことがよかったという感想があった。その一方で、日本人学生が留学生別科の授業で交流を行うときは、欧米やアジアの学生が殆どであることから、中南米のいろいろな国の学生とも交流ができ、今まで交流のなかった多くの国の人と触れ合える機会ができてよかったという感想もみられる。日本人学生にとってもこの試みは多様性が深まった交流になったと言えよう。

②「反対に、よくなかったと思うことはありますか。それは何ですか」という質問にたいして、「ない」が10人中5名、無記入が1名で、感想としては、英語が全然聞き取れなかった、あまり交流できなかった、時間が限られており友達になるまでいけなかった。日本語と英語両方で伝えなければならなかったのでは、思ったより時間がとられた。など、日本人学生の英語力の問題も見られた。

## 6. 課題

今回のこのような試みは初めてであったので、準備不足であった部分や予想がつかなかったこともあったが、実践してみて改善すべきだと思った部分が何点かあったので以下に述べる。

1. 最初に各グループにICレコーダーを置き、始まったら録音するように指示をしていた



が、半分ほどのグループが録音できていないか、途中で活動が変わった時に録音が終わってしまったグループがあったので、教師が確認すべきであった。

2. 時間が十分ではなかった。録音できていたグループの様子を聞くと、日本人の中に英語があまり得意ではない学生がいる場合やディスカッションが日本語で続いてしまい中南米LAP生がわからない場合は、別科生の調整役が通訳をする時間が必要になった。一つのテーマについて話していても次の活動をはじめなければならず、十分に話し合う時間がなかった。教師が次の活動の指示した時に、ディスカッションが盛り上がっていたグループもあったので、もう少し時間がとれるとよかった。
3. 学生33名と教員3名の参加であったが、設置のホワイトボードの他に移動式ホワイトボードを2つ搬入したため、ディスカッションをするためにグループになった机とホワイトボードの間に十分なスペースができず、活動がスムーズにすすまなかった。また、録音もICレコーダーの置かれた位置によって、周りの声がうるさくよく聞こえない部分もあったので、グループごとにもう少し距離をとる配置にするべきであった。交流を行った教室は40名収容の教室であったので、その倍ぐらいの広さの教室が必要だと感じた。
4. 中南米LAP生には日本語ゼロでIEJに参加した学生と母国で日本語を勉強してきた初級学習者がいたが、準備の段階で、初級学習者の中には、A4用紙に既習の文型や単語を使ったり、辞書で調べて書いており、日本語で意見や感想を表す練習となった。一方ゼロ初級者は準備時間があまりなかったこともあり、英語で書いてもらうことで終わってしまい、教師が授業後に用紙に日本語を付け加えるという作業を行わなければならず大変時間をとった。このようなことを別の日本語交流の時間に日本人学生に手伝ってもらうなどの時間を設けることで、別のタイプの交流ができたかもしれない。

## 7. まとめ

留学生と日本人という異文化間交流は留学生別科でもIEJでも行ってきたが、日本語の異レベル間交流は、はじめての試みであった。授業が終わった時には、教師が想像した以上に学生が今までにない経験に非常に満足していたし、むしろ時間が足りないという意見が多かった。本稿では主に中南米LAP生の視点から報告したが、多様な文化に触れ、意見交換を通して日本を評価する視点を増やし、自他の文化理解を深める一歩となったことはまちがいないであろう。日本語が初級レベルであっても今回のように英語と日本語で通訳を交えながらディスカッションするという方法で、自分の意見をしっかり言える機会が得られたことは、彼らの知的好奇心を満足させるものになったと思う。また、日本語初級学習者が上級学習者と交流することで、学習モチベーションが高まったことも見られた。

これは、日本語初級学習者のモチベーションを高める一つの新しい方法と言えるかもしれない。

**(注)**

- 1) 平成30年10月の時点で南山大学が中南米連携校の中で交換交流協定を結んでいる大学は5か国7大学である。

**参考文献**

土居美有紀 (2016) 「ゼロ初級中心の日本語学習者と母語話者との交流の実践」『南山大学外国人留学生別科紀要』第1号, pp.37-47

# What did Elementary Japanese Course Students, Advanced Japanese Course Students and Japanese Students Gain through the Exchange Class? —From the Perspective of Elementary Japanese Course Students—

Yuko MORI

## Abstract

This report will explore the results and issues from the interaction between students from different cultures with varying Japanese language levels enrolled in the Intensive Elementary Japanese course at Japan-Latin America Student Mobility Program, the Advanced Japanese course at the Center for Japanese Studies, and Japanese undergraduate students, from the perspective of foreign exchange students in the Intensive Elementary Japanese course.

Students from 16 countries discussed about the good points of Japan and their own countries. By getting to know diverse cultures, students gained a better appreciation of Japan, deepened their understanding of other cultures, and were able to objectively view the culture of their own countries.

In addition, students from elementary courses were able to ask advanced students how long they have learned and the study methods to reach the advanced level. They became confident that it is not impossible to reach the advanced level and were able to gain motivation for learning Japanese.

**KeyWords** : elementary Japanese course, advanced Japanese course,  
exchange class, interaction, motivation